

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年2月27日
函館市立戸倉中学校

1 本年度の重点教育目標

「未来を生き抜く力の育成」…社会的な自立の時に向けて

2 本年度の取組の重点

- ① 「確かな学力」の育成 ② 「豊かな心」の育成 ③ 「健康でたくましい心と体」の育成
④ 「社会性の向上へ向けた『育てる生徒指導』」の推進 ⑤ 「地域と共にある学校づくり」の推進
⑥ 「三気（元気・やる気・本気）に満ちた教職員組織」の構築と推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学力	学校全体として授業改善に取り組むことによって、生徒が「分かった」、「対話や表現することが楽しい」と実感できているか。	b	内容の焦点化と目標を明確にした授業改善により基礎学力を高め、生徒の主体的な学習を促していく。	A	B	基礎学力を高めるためには、家庭学習が重要であり、家庭と連携した取組が必要。
	ICT機器や一人一台端末の効果的な活用により、生徒の確かな学力に繋げることができたか。	b	今年度同様、校内研修に組織的・継続的に取り組み、確かな学びに繋げていく。	A	B	校内研修で取り組んだことが授業で活かされるような研修内容の工夫が必要。
② 豊かな心	「考え議論する」道徳の授業や学級活動の時間を通して、思いやりの心を育むことができたか。	a		A	A	
	学校の適切な情報モラル教育により、ICT機器やSNS等の望ましい利用に繋がっているか。	b	利用に関して、学校と家庭の連携が重要であり、生徒の現状を共有し、相互に見守ることで改善に繋げる。	A	B	現状を共有するためには、学校で、どのような指導をしたのか、家庭に発信する機会を増やす必要がある。
③ 体力向上	学校の様々な行事を経験することにより、生徒の心身の成長に繋がっているか。	a		A	A	
	学校の様々な取組により、生徒の安全で健康な生活や体力の向上に繋げることができたか。	a		A	A	
④ 生徒指導	共感的な指導や生徒の自治的な活動等の取組により、生徒が楽しく落ち着いた学校生活を送ることができたか。	a		A	A	
⑤ 地域連携	学校がどのような生徒の育成を目指しているか、学校運営協議会や校区の小学校、地域の方々等と共有されているか。	a		A	A	
⑥ 教職員組織	教職員の心理的安全性の確保のもと、協働・共感の姿勢で教育活動に向かう職員集団を目指すことができたか。	b	互いを尊重し、失敗を批判せず、積極的にチャレンジできる雰囲気醸成し、ウェルビーイングな職場環境を構築していく。	A	A	望ましい職場環境を構築するために、今後も継続した取組が必要。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。